

農福連携等プラス推進モデル事業における取組事例（奈良県・奈良市）

農業以外の連携先（プラス）

- 【観光業】 奈良市観光協会・全国農協観光協会（体験型観光農園の整備）
- 【商工業】 MYP×近畿大学ブランドによる6次産業化・ジェラート贈答品開発

実施事業所・連携事業所

- 【実施】 特定非営利活動法人エムワイピー農場 MYPユニバーサル農園（就労継続支援B型）
- 【連携】 (株)萩原農場 / 近畿大学農学部 / (株)オーガニックワン

事業の応募のきっかけ（地域が抱える課題）

【事業所の課題】

- ・小玉スイカ「ぷちっと」の栽培を外部の接ぎ木苗に依存。発芽率約50%・苗代高騰・納期不安定という課題を抱えていた。
- ・栽培期間が11月の年1回収穫のみで、通年就労・工賃向上が困難だった。

【地域の課題】

- ・大和スイカは種子生産の全国シェア80%を誇るが食用栽培は0.6%に留まる。
- ・農業後継者不足・耕作放棄地増加。
- ・スイカの観光農園は奈良県にはない。
- ・奈良県の障害者就労施設は全国比▲35%で受け皿が不足していた（厚労省R6）。

作業の様子



事業内容

- ①**実生栽培体制の確立** 種（実生）から「ぷちっと」を育てる体制を構築。(株)萩原農場・近畿大学農学部の指導のもと播種→発芽→育苗→交配（花合わせ）→収穫の全工程を自社完結できるマニュアルを整備。
- ②**暖房・排水設備の導入による通年栽培化** 既存1,016㎡ハウスに暖房機・内張・排水装置を導入。栽培期間を1か月（8月）→約8か月（3月～10月）へ延長。
- ③**大和スイカの歴史が分かる体験型観光農園の整備** 大和スイカの歴史・品種特性の座学と、播種・交配・収穫・非破壊糖度測定の実験を組み合わせた観光農園プログラムを構築。MYP×近大ブランドのジェラート贈答箱を開発。
- ④**非破壊糖度計・エアクション包装機の導入** 糖度可視化と安全な通販出荷を実現。10～11月に160個の通販出荷を達成。



導入設備
(エアクション包装機・非破壊糖度計)

機器を使った

事業実施後の効果（コーディネーターの支援）

- ①**栽培計画の指導** オーガニックワン・萩原農場・近畿大学・MYP農場と連携し、栽培技術を体系化。先進地視察を通じて、再現性のある栽培マニュアルの作成・確認を行った。
- ②**ブランド化の指導** 萩原農場・近畿大学と協力し「ぷちっと」スイカのブランド化を推進。パッケージ・パンフレットを作成し、非破壊糖度計で品質の安定化を図った。
- ③**販売計画** 販売期間の延長と端境期の販売を視野に入れ、糖度の安定確保に努めながら、既存販路の定着と新たな販路拡大に取り組んだ。
- ④**観光農園** 2組12名を対象に、収穫体験・糖度測定・播種・接ぎ木など多彩な農作業体験と大和スイカの歴史解説を提供し、概ね好評を得た。